



### 目次

● 一診療連携一 「医療連携・相談室」.....	2
● 一職場紹介一 「病理・細胞診検査室」.....	4
● 一新入職員紹介一.....	6

## 診療連携

### 医療連携・相談室

#### <はじめに>

会員及び患者が満足できる質の高い医療を提供するという目的で、平成15年10月に開設された医療連携室は、平成23年10月現在8年目を迎えました。平成21年10月には病院組織改革により、医療連携室と医療相談室が統合され、医療連携・相談室となり院長所管となりました。現在、人員は4人です。連携業務を1.5人で、相談業務を2.5人で担当しています。以下、平成23年度上半期の実績を参考に業務内容を紹介します。

#### <連携業務>

連携業務の主なものは、患者様の入退院に際して、紹介元医療施設への入院連絡書及び退院連絡書作成・退院総括の送付や入院中の患者様の症状・手術経過連絡書の送付、また、紹介元医療施設からの事前診療録作成書を受け付け、仮診療録の作成や再診の患者様の外来カルテの準備等を行うことで、受診手続きがスムーズに行われ、患者様の待ち時間の負担を少しでも改善するよう心がけております。その他にも外来受診された患者様の紹介元への返書をその日のうちにお届けできるように返書管理やセカンドオピニオン外来（窓口業務・他医療施設への支援）などもおこなっています。また、年3回広報誌「連携室だより」を発行、会員や県内の医療機関約1,300件を対象に配布しています。

医療連携室発信文書取扱い件数（平成23年度）

		H23.4	H23.5	H23.6	H23.7	H23.8	H23.9	H23.10	合計
1	入院連絡書FAX送付	333	314	340	363	326	298	285	2,259
2	退院連絡書FAX送付	394	336	359	370	385	314	323	2,481
3	事前診療録作成書受付	143	121	152	146	139	124	126	951
4	症状・手術経過連絡書	123	110	127	123	111	149	100	843

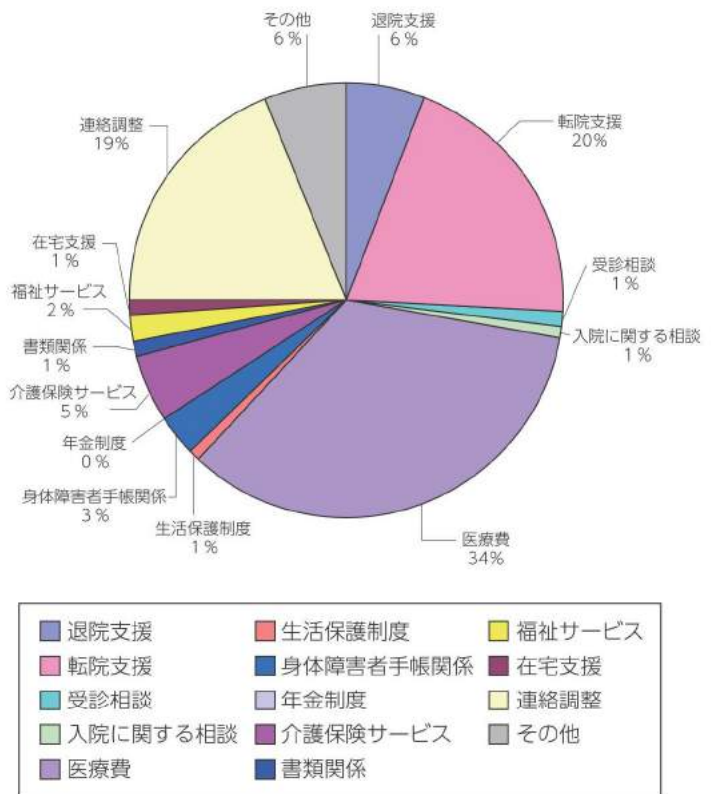
## <相談業務>

相談室では、患者様やご家族が安心して療養生活ができるようさまざまな問題や心配事を解決するためのお手伝いをさせていただいております。主なものとして、患者様の経済的問題、療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、また、受診・受療援助、退院・転院支援などを行っております。相談時間は月曜日～金曜日が8：30～17：00まで、土曜日が8：30～12：30までとなっております。相談場所は本館1階右側の医療相談室、また、電話での相談も承りますのでご利用下さい。

平成23年度 医療相談件数

	相談内容	23年度
1	退院支援	96
2	転院支援	319
3	受診相談	10
4	入院に関する相談	13
5	医療費	551
6	生活保護制度	14
7	身体障害者手帳関係	44
8	年金制度	0
9	介護保険サービス	73
10	書類関係	13
11	福祉サービス	34
12	在宅支援	18
13	連絡調整	290
14	その他	92
	合計	1567

平成23年度 相談内訳



今後の方針として、①会員施設との連携の強化。②退院支援・調整における早期介入と他職種・関連機関との更なる連携。③患者や家族が安心して治療・療養に専念できるよう、さまざまな問題の早期発見と支援。④相談員として適切な対応を心がけ、院内外を問わず親しみの持てる環境づくり。を挙げております。今後とも、よろしくお願いいたします。

## 職場紹介

### 病理・細胞診検査室

病理・細胞診検査室は平成23年3月まで検査センター所属でしたが、検査センターの縮小案が決まり平成23年4月から医師会病院・診療支援部所属の病理・細胞診検査室になりました。スタッフは診療部、病理診断科の常勤医師2名と鹿児島大学と他の医療機関からの非常勤医師が週5日交替で勤務して頂いています。それと臨床検査技師9名（内、細胞検査士9名）、事務1名で運営しています。

業務は主に検査センターが受託した病理組織検査、細胞診検査と医師会病院の病理組織検査、細胞診検査、術中組織診断、細胞診断、病理解剖などを行っています。

過去3年間の実績を見てみると、病理組織検査は総数で平成20年度は17,964件（内、医師会病院分は3,620件）で、平成21年度は15,920件（内、医師会病院分は3,148件）で、平成22年度は15,484件（内、医師会病院分は3,017件）で年々少なくなっています。術中病理組織診は平成20年度は824件（内、院内は632件）、平成21年度は759件

（内、院内は568件）、平成22年度は693件（内、院内は530件）でした。病理解剖は平成20年度12件、平成21年度は3件、平成22年度は5件と少なく病理解剖についてはどの医療機関も減少傾向にあり全国的な流れだと思います。全ての検体で年々減少していますが、これは市内の中規模病院が病理診断科を立ち上げ自院で病理診断を行うようになった事と、DPCによる診療報酬が大きな要因のような気がします。

細胞診検査は平成20年度は44,807件（内、院内は1,815件）、平成21年度は41,928件（内、院内は2,366件）、平成22年度は44,561件（内、院内は1,728件）で細胞診検査は21年度に比べて22年度は増加しています。

平成22年4月の診療報酬改正で病理関係は現状維持か上がったものが多く、特に免疫染色関係は増加しています。通常、病理診断はHE染色で診断しますが、近年、遺伝子変異検査、免疫染色を併用して診断する症例が増え、抗癌剤使用にあたって検査されるHER2タンパク（乳癌、胃癌等）、



EGFR、K-ras 遺伝子検査（肺癌、大腸癌等）が増えています。

細胞診は長年、婦人科細胞診で使われていたパパニコロ分類（クラス）ではなくベセスダシステム2001の診断方式に変更になりました。その理由は 1)標本の適正、不適正を評価して不適正をなくす 2)クラス分類ではなく、推定病変を記述的に記載 3)診断困難な異型細胞に対して新しいクライテリアを設ける 4)ヒトパローマウイルス（HPV）関与のエビデンスを取り入れる 5)細分化された施設間（診断者間）での標準化が困難である 6)欧米ではクラス分類はされておれず、既に廃止されている。当施設も平成22年5月より採用していますが、クラス分類も併記しています。

病理検査室は室内環境問題があります。臓器固定には欠かせないホルマリンがあり、平成20年に改正された労働安全衛生法の特定化学物質障害予防法規制（以下、特化則）が施行され、ホルムアルデヒドは特化則の第3類物質から特定第2類物質に指定されました。これにより、作業環境測定（年2回）の実施が義務付けられ、管理濃度は0.1ppmとなりました。管理濃度が0.1ppmになったことで、有効な措置を講ずることがさらに重要になり、ホルムアル



デヒドのガス又は蒸気を発散する屋内作業場については、発散源を密閉する設備、局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設けること、とされています。切り出しを行う場所はプッシュプル型換気装置を設置し条件はクリアするようになりましたが、室内全体としては改善の余地があるように思います。

今後の病理・細胞診室としては近年、遺伝子の異常についての多くの研究が進んで、それに関わる病理検査も益々、重要性を増すものと思われます。それらに対応出来るよう日々努力していきたいと思えます。



## 新入職員（新任医師）紹介



### 放射線科

<プロフィール>

(H23. 9. 1～)

名前 タニヒサ ユカ 田之畑佐也佳

出身県 鹿児島県

出身大学 藤田保健衛生大学

前勤務先 南風病院

趣味 スキューバダイビング

医師会病院（管理型）の臨床研修医二期生として学ばせて頂いてから約5年振りの赴任となりました。当時お世話になった先生方が変わらずいて下さるのでとても心強いです。早期発見、丁寧な診断を心掛けております。画像診断は謎解きのようなもので、すぐに答えが出るものもあればそうでないものもあります。そのためご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、ご理解頂けますと幸いです。よろしくお願い致します。



### 【基本理念】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

### 【基本方針】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.20

創刊日：平成17年8月10日

発行日：平成23年12月10日（年3回 4・8・12月発行）

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 田畑 峯雄

担当：医療連携・相談室

TEL：099-254-1125（代表）

TEL：099-254-1121（医療連携・相談室）

FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）

ホームページ：<http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp>

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。